

4月3日(金曜日)

【新改訳 2017】

ルカ:22章1～6節

22:1 さて、過越の祭りと言われる、種なしパンの祭りが近づいていた。

22:2 祭司長、律法学者たちは、イエスを殺すための良い方法を探していた。彼らは民を恐れていたのである。

22:3 ところで、十二人の一人で、イスカリオテと呼ばれるユダに、サタンが入った。

22:4 ユダは行って、祭司長たちや宮の守衛長たちと、どのようにしてイエスを彼らに引き渡すか相談した。

22:5 彼らは喜んで、ユダに金を与える約束をした。

22:6 ユダは承知し、群衆がいないときにイエスを彼らに引き渡そうと機会を狙っていた。

きょうは受難週第四日目のことです。よく「ユダの裏切り」と言われる悲しい話に入ります。

彼は、主の弟子一行の会計係をしていたようです。信頼されて

いたはずの人です。しかし、この人がお金をもらってイエスを敵対者たちに引き渡そうとしたのです。なぜだろうかと疑念がわいてきます。

ここでは、「サタンが入った」とあります。ユダ自身はまだ気づいていなかったようです。ここに油断があったとは考えられないでしょうか。彼には、金銭欲(ヨハネ12・6参照)と地上的メシヤ王国に関して失望感があったと推察されます。それは彼の弱点だったと思われませんが、サタンは有力者の弱点を巧妙に利用します。この時は、主は大きなご計画のゆえに許容されました。

～祈り～

主よ。どうかあなたの子どもたちが、サタンの巧妙なわなに陥ることがありませんように、また、サタンのつけ入るすきまをつくることのないようにお守りください。